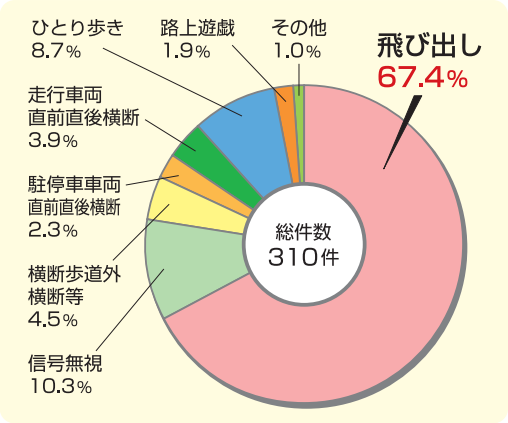
歩行中の子どもの交通事故原因の約6割は「飛び出し」

外出時は、子どもから目を離さない。

子どもの交通事故は、自宅から50m以内で、午後2時から6時の時間帯に多発しています。これは、保護者が忙しい時間帯のため子どもから目が離れがちになることや、まわりが薄暗くなり、ドライバーにとっても見えにくくなることなどが原因と考えられます。
子どもは何かに夢中になると、まわりのことに注意が向かなくなる傾向があります。
外出時には、子どもの手首を持つなど、子どもが急に走り出さないように注意をしましょう。

歩行中の子どもの原因別事故件数（6歳以下の子ども）



平成24年中（公財）交通事故総合分析センター資料を参考に作成

自転車に乗せるときは「ヘルメット」を着用

死者の約6割は頭部に損傷。

子どもは、体に比して頭が大きいため転倒しやすく、頭に損傷を受けやすくなります。子どもが自転車に乗るときや、同乗させるときには、ヘルメットを必ずかぶらせるようにしましょう。

2人の子どもを乗せるときは「幼児2人同乗用自転車」を使用しましょう。

運転者のための乗車装置及び幼児用座席2つを設けるために特別な構造、装置を有した自転車を幼児2人同乗用自転車といいます。
こうした自転車を使用する際には、BAA（右図）または、SGといった安全性を示す基準適合マークの付いたものを選ぶようにしましょう。

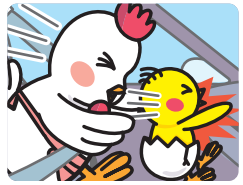
『自転車の車体の安全性を示すマーク』
自転車は次のマークがあるものを使いましょう。

TSマーク　JISマーク　BAAマーク　SGマーク

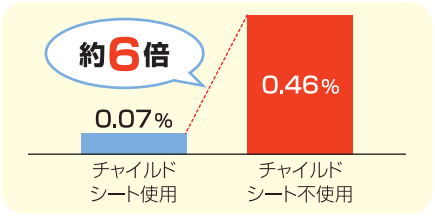
チャイルドシートは確実に取付け、正しく使用

不使用で致死率が約6倍。

義務付けられている6歳未満のチャイルドシートの使用率は60.2%（H25.4警察庁、JAF調べ）でした。
幼児の命を守るため必ずチャイルドシートを使用しましょう。



幼児の自動車同乗中のチャイルドシート使用有無別致死率



警察庁交通局　平成24年中の交通事故の発生状況

正しく座席に取付けられていますか？

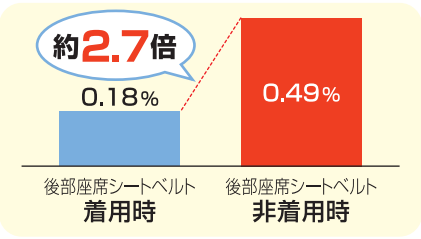
前述の調査によると、幼児用チャイルドシートを使用していても、約7割が正しく取付けられていませんでした。
安全のために、身長・体重にあったチャイルドシートを選び、取扱説明書をよく読み、正しく取付けましょう。

後部座席もシートベルト着用が義務

後部座席シートベルト非着用時の致死率は、着用時の約2.7倍。

シートベルトをしていないと、事故の際、乗員が車のガラスを突き破り、車外に放り出され路面に身体を強打したり、後続車両などにひかれたりすることがあります。

後部座席シートベルト着用有無別の致死率



警察庁交通局　平成24年中の交通事故の発生状況

交通ルールを守ってつながる笑顔

交通ルール遵守のためのロゴマーク

このロゴマークは、人と擬人化した車を親しみやすく表現し、「交通ルール遵守」を訴求しています。一人ひとりが交通ルールを守ることで、交通事故のない安全で安心な社会を実現し、みんなの笑顔がつながります。